

神政連レポート No.218



特集

故安倍晋三先生を偲ぶ

▼安倍晋三元首相の
御功績を振り返る

【巻頭言】

▼安倍国議懇会長を偲びて

▼祝！山谷えり子氏が四期目の当選

第二十六回参议院議員選挙結果報告

― 参院選の結果を踏まえ、

いまこそ憲法論議を加速せよ！―

▼美しい国づくりに向けて

▼神政連国会議員懇談会総会・

令和四年中央委員会を開催

神政連レポート 意 No.218 発行 令和四年九月一日 / 編集 神道政治連盟

神政連役員紹介



副会長 石川 正人
神奈川県 師岡熊野神社宮司



副会長 服部 憲明
愛知県 岩津天満宮宮司



会長 打田 文博
静岡県 小國神社宮司



幹事長 黒神 直大
山口県 遠石八幡宮宮司



総務会長 高麗文康
埼玉県 高麗神社宮司

▶ 副幹事長

山口直英 東京都 氷川神社宮司
八 劔 隆 千葉県 八劔八幡神社宮司
藤山敬廣 北海道 亀田八幡宮宮司
林 保彦 山形県 谷地八幡宮宮司
本郷啓介 岐阜県 金神社宮司

葛城健一郎 石川県 犀川神社宮司
梶 道嗣 京都府 天満宮宮司
藤山知之進 岡山県 新庄八幡宮宮司
長曾我部昭一郎 愛媛県 伊豫豆比古命神社宮司
黒岩昭彦 宮崎県 鶴戸神社宮司

▶ 総務

田村康雄 東京都 渋谷氷川神社宮司
渡邊平一郎 山梨県 小室浅間神社宮司
西川充彦 北海道 富良野神社宮司
田村 稔 宮城県 二木神社宮司
宇治土公貞尚 三重県 猿田彦神社宮司

上田正宙 富山県 有磯正八幡宮宮司
長澤好晃 和歌山県 闘雞神社宮司
諏訪邊泰敬 島根県 智伊神社宮司
吉見政晃 香川県 石清水神社禰宜
田原成一郎 鹿児島県 照国神社権宮司

▶ 網紀委員

別役重具 高知県 高知八幡宮宮司
星野和彦 新潟県 戸隠神社宮司
宮本隆之 大分県 春日神社宮司

▶ 監査委員

利根康教 神奈川縣 寒川神社宮司
渡部公麿 広島県 邇保姫神社宮司
木下龍輝 東京都 明治神宮権宮司

▶ 議長

安部匡俊 福島県 隠津島神社宮司

▶ 副議長

柳田耕太 栃木県 大前神社宮司
松中 久 奈良県 御井神社宮司

▶ 神宮

齊藤郁雄 三重県 神宮司庁



〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目1番2号
電話 03(3379)8282 FAX 03(6629)8321

安倍国議懇会長を偲びて



神道政治連盟会長
打田 文博

去る七月八日、神道政治連盟国會議員懇談会・安倍晋三会長が凶弾に倒れ、逝去されました。誠に哀痛の極みであり、

安倍会長の御霊の御平安をお祈り申し上げます。

安倍先生におかれましては、約十三年間会長をお務め頂き、この間首相という激務の中にあっても、私たちの国民運動に対しご理解とご指導を賜りました。殊に、この一年は、憲法改正や経済政策そして安全保障に、首相経験を踏まえ積極的に活動されておられました。政治家として我が国の将来を思う並々ならぬ覚悟にはしばしば圧倒されました。また、政治家安倍晋三は、卓越したリーダーシップで、内外に大きな存在感を示されたことは、世界の要人からの言動にも表れております。衷心より生前

のご功績に感謝申し上げる次第であります。

私が安倍先生と初めてお会いしたのは、平成七年六月でした。当時、村山内閣が終戦五十年国会決議を強行すべく動きを活発にする中、決議文案をめぐり、友好団体とともに院内の参議院自民党幹事長室に陣取り、村上幹事長（当時）を窓口に加藤紘一自民党政調会長（当時）との交渉に当たっていました。私は、宮崎義敬幹事長（現常任顧問）とともにその場におりました。終了後、午前零時過ぎ、院内を後にする時、出口で一人ひとりに「お疲れ様でした」と見送つて下さったのが初当選二年目の安倍先生でした。決議文案の結果は、同意した文言が一部変わっており、当時から不思議でありましたが、今となつては加藤・村上両氏は他界され、確認のしようがありません。五十年決議は、衆議院では約半数が欠席し、二三〇人の賛成で可決という異例の決議となり、参議院では行われませんでした。

した。この問題の反省が、後の安倍首相の戦後七十年談話に反映されたことは言うまでもありません。

平成二十五年には、神宮式年遷宮が斎行されました。戦後の遷宮史の中で参列された首相はおりません。遷御の儀に先立つ四月下旬、長曽我部延昭会長（現顧問）と共に官邸の安倍総理を訪ね、十月の遷御の儀の説明と参列のお願いをさせて頂きました。安倍総理は遷宮について強い関心をおもちで、儀式の説明など熱心にお聞きくださいました。遷御の儀には、安倍総理はじめ八閣僚が参列し、昭和四年の浜口首相以来八十四年ぶりとなりましたが、日本の総氏神の重儀に相応しい先例が出来たことは意義深いことだと存じ、今でも安倍総理、さらには神宮当局に感謝致しております。

平成三十一年、現憲法下で初めてとなる御譲位と御代替による改元・諸儀式・諸祭典など、さらには安定的な皇位継承に関することも折に触れ意見交換をさせて頂きました。そして、その多くは総理のリーダーシップにより取り納められました。詳細は別の機会に譲りたく存じます。

話は変わりますが、七月に実施された参議院選挙であります。本連盟が推薦させて頂きました山谷えり子先生（比例区）には四期目の当選を果たされました。この度の選挙は、憲法改正が重要な争点となり、参議院で改憲派が三分の二を獲得出来るかが国民の関心を集めました。結果は、改正決議に必要な一六六名を上回る一八二名（中央本部分析）となりました。今後は国会決議に向け具体的な対策と国民投票を踏まえた国民運動を同時進行で取り組まねばなりません。

また、昨今議論が活発化している選択的夫婦別姓制度の導入・同性婚の容認・同性パートナーシップ制の導入・性自認と差別の問題など、社会生活に大きな混乱を来すことが懸念されます。このような課題にも積極的に取り組み、公正な理解と啓発活動に努めてまいります。ここに所懐の一端を記し、安倍会長の御霊前に捧げ、同時に会員各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

（八月八日記）

故安倍晋三先生を偲ぶ

神道政治連盟国会議員懇談会 事務局長
衆議院議員

城内 実



追悼

安倍晋三先生に謹んで哀悼の誠を捧げます。

私自身、初出馬以来今に至るまで、安倍先生に大変なご指導を頂いてきました。

生前のご厚情に深く感謝申し上げます。

同志とともに安倍先生のご遺志を継ぎ、国家国民のため力を尽くしてまいります。

はじめに

安倍晋三先生が凶弾に倒れて二カ月が経とうとしておりますが、今もなおその喪失感は大きく、現実として受け入れられない自分があります。

過去・現在・未来の国民の視点に立ち、祖国のため、祖先から継承した我が「日本」を子々孫々へ守り伝えるた

安倍先生との縁

安倍先生は私を弟のように気にかけて、可愛がってくださいました。今も安倍先生のお顔が脳裏に浮かびます。

私には、安倍先生から頂いたご提案に三度「ノー」と言った過去があります。最初のノーは、私の外務省職員時代に遡ります。当時、国会議員を志す旨を安倍先生（当時内閣官房副長官）に相談させて頂いたところ、「出馬にはまだ早く、一度私の秘書官をやって経験を積んでから目指した方がよいのではないか」とご助言を頂きました。しかし、私は安倍先生のご助言を聞かず、すぐに立候補する決意を固めてしまいました。

第二次安倍政権

二度目のノーは、比例区第一位での立候補のご提案です。初出馬の四カ月前、私の対立候補が所属する党が自民党と連立を組むため、私に小選挙区での出馬を見合わせ、特例として東海比例区一位で立候補してほしい、と安倍先生からご提案を頂きました。当時何の実績もない新人が当選確実な比例の一位に推薦していただけという好待遇でしたが、私は比例復活がない無所属での出馬を選択しました。

そして三度目のノーが郵政民営化法案への反対です。安倍先生から「採決を棄権か欠席してくれ」と説得を受けましたが、私は反対票を投じ、その結果郵政選挙で刺客を送られ、四年間の浪人生活を余儀なくされました。

安倍先生がパーティー等の講演で私に触れてくださる際、私が安倍先生の言うことを聞かなかったことを紹介し、「城内君は少し頑固な所があるんです」と言い、その後に必ず、「信念をもって私の説得を振り切り、郵政選挙で一敗地に塗れ、四年間這いつくばって地道に活動したからこそ、鍛えられ、本物の政治家になった」と仰ってくださいました。

以来、第二次安倍政権が発足してから外務大臣政務官や外務副大臣として安倍政権の「地球儀を俯瞰する外交」の一端を担わせて頂き、また党内では経済産業部会長としてアベノミクスの最前線に携わらせて頂き、一

貫して安倍先生を支えてきました。

わが国の国際的な信用を取り戻し、各国の首脳と強固な信頼関係を築き上げたほか、経済を劇的に回復させて、デフレ脱却まであと一息というところまで来た実績は、誰もが安倍先生を大宰相と認めるものではないでしょうか。まさに「日本を取り戻す」という志を有言実行されてきたのです。

また、安倍先生は退位特例法の制定や、御代替わりにおいて天皇陛下の御譲位と皇太子殿下の御即位が国民の祝福の中でつつがなく執り行われるよう努められ、それを実現させました。

安倍先生が総理大臣として成し遂げてきた功績は極めて大きく、そしてそれは、わが国の歴史に刻まれ、国民の間で語り継がれていくことでしょう。

安倍先生のご遺志を継ぎ、取り組むべきこと

安倍先生が総理大臣を退任されてから、私は安倍先生と一緒に様々な課題に取り組みさせて頂きました。一週間のうち三日以上、安倍先生の事務所にお伺いして打ち合わせ

生活を豊かにすることへの思いをお話し頂いております。

「景気が停滞し、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵略の影響で国民生活が厳しい今、優先すべきは基礎的財政収支（プライマリーバランス）の黒字化ではなく、積極的な財政政策による国民生活と企業活動の下支え、インフラ投資、教育投資、防衛投資等によって国力を取り戻すこと」という思いを私達同志と共有し、ともにその実現のために戦ってまいりました。

令和四年六月七日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針二〇二二（骨太の方針）」に基礎的財政収支の目標年次が明記されず、財政健全化の目標において「マクロ経済政策の選択肢がゆがめられてはならない」という文言が記載されました。

これは、わが国の財政政策のあり方に影響を与えるものであり、積極的な財政政策の実現に向けて重要な礎となるものです。ここまで画期的な大転換が実現できた背景には、安倍先生のお力があつたことは言うまでもありません。

安倍先生とともに戦ってきた私達には、行き過ぎたりベラリズムによる家族や社会、国家、皇室の解体を阻止す

せ、多い時には一日に数回安倍先生に呼ばれ、ひざ詰めで話し込むこともありました。信頼して頂き、多くのプロジェクトを任せて頂いたことを、本当に光栄に思います。安倍先生が凶弾に倒れる前日七月七日の夜も電話でお話し、この日埼玉県議会で成立したLGBTへの理解増進を図る条例についての懸念と今後の対応を議論するとともに、来日を予定していたスコット・モリソン前豪首相との意見交換昼食会の設定を安倍先生から依頼されておりました。

安倍先生は、行き過ぎたりベラリズムによって家族、社会、国家、ひいては皇室が解体されてしまうことに大変な危惧を抱いておられました。ここで詳細を書き記すことは差し控えますが、的確な現状分析と課題把握、そして課題解決のために最適な方法をもって対応する、その力には私は多くを学ばせて頂きました。

安倍先生が最も問題意識をもって取り組まれていた最重要課題の一つが、財政政策です。私が顧問を務める「責任ある積極財政を推進する議員連盟」では二度ご講演を頂き（ご講演の様子はYouTubeで公開されております。）、道半ばのアベノミクス、日本経済を復活し、国民の

ること、積極的な財政政策によって国力を取り戻すこと、憲法改正を実現すること等、安倍先生のご遺志を継いで取り組んでいく責任があります。安倍先生がなき今、一致団結して数々の課題に対応していかなければ、わが国は存亡の危機に立たされるといっても過言ではありません。同志とともに思いを一つに、安倍先生が立ち向かってきたように、国家国民のため全力を尽くす覚悟です。

おわりに

安倍先生が日本のために立ち向かい、維持すべきものを護り、時代に適さぬものを改めようとしてきた数々の問題の重大さ、そしてその困難さを日々改めて強く実感しています。

「どんな困難が待ち構えているとも、どんな批判にさらされようとも、国のために戦う政治家」

安倍先生は私のことをこのように仰ってくださいました。

安倍先生のご遺志を継ぎ、安倍先生に恥じぬよう、これからも国家国民のために信念を貫いてまいります。

安倍晋三元首相の御功績を振り返る



皇室

◆「平成」から「令和」へ。御譲位による御代替の諸儀式を挙行
平成二十九年六月「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」を可決成立。以降、諸儀式及び諸行事の内容等について検討を重ね、恙なく挙行しました。

新元号「令和」へ改元

平成三十一年四月一日、有識者らの検討を踏まえ、新たな元号を「令和」とすることを閣議決定しました。現存する最古の歌集である「万葉集」から出典され、国書を典拠とする元号は歴史上初めてとなりました。

皇位の安定的継承について男系継承の意義を提唱

小泉政権、野田政権で検討された女系天皇や女性宮家に明確に反対するとともに、皇位継承について、男系継承を前提に「古来例外なく男系により継承された重みを踏まえる」との国会答弁を定着させました。

憲法

◆憲法改正の手続きを定める「国民投票法」の制定

平成十九年五月、憲法改正のための国民投票に関する手続きを定める「日本国憲法の改正手続に関する法律」を成立（平成二十六年六月には投票年齢の見直しなど同法を一部改正）。これにより憲法改正の国民投票が行える環境が整備されました。

◆「自民党改憲四項目」を発表

平成三十年三月の自民党大会で、改憲の優先項目として、①「九条への自衛隊明記」、②「緊急事態条項創設」、③「参院選「合区」解消」、④「教育の充実」の四項目を発表。条文のイメージとして、たたき台となる素案を取り纏めました。

教育

◆「教育基本法」の改正

「戦後レジームからの脱却」をスローガンに教育再生を重要政策として掲げ、平成十八年十二月、改正教育基本法を成立させました。同法では「教育の目標」として「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」などの文言が新たに盛り込まれました。

◆特別の教科「道徳」の必修化

いじめや自殺の増加が問題視される中、子供たちの道徳性を育むことを目的に、平成二十七年三月、小・中学校学習指導要領を一部改訂し、道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付けました。これにより道徳教育の指導方法の改善や、検定教科書の導入を実現しました。

靖國神社参拝・歴史認識

◆首相在職中に靖國神社参拝

就任から一年にあたる平成二十五年十二月二十六日に靖國神社を参拝しました。現職首相の参拝は平成十八年八月十五日の終戦記念日の小泉純一郎氏以来です。

◆「戦後七十年談話」の閣議決定

平成二十七年八月、「戦後七十年談話」を閣議決定しました。談話では「あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません」と明記し、今後、際限なく謝罪を続けることはないとの意思表示を明確にしました。

安全保障

◆「国家安全保障会議」の設置／「国家安全保障戦略」の策定

平成二十五年十二月、厳しさを増す国際情勢を見据え、我が国の安全保障に関する重要事項を審議する機関と

して「国家安全保障会議」を設置しました。その後、日米同盟の強化、域内外のパートナーとの信頼・協力関係の強化等を盛り込んだ基本方針「国家安全保障戦略」を策定しました。

◆「集団的自衛権の限定容認を閣議決定」／「平和安全法制」の制定
平成二十七年七月、これまで行使が認められていなかった「集団的自衛権」について、日本の存立や国民の生命や自由が脅かされ、国を守るための適当な手段がないときに限り発動可能とする憲法解釈変更を閣議決定しました。また、同年九月には、いかなる事態においても日本国民の命と平和な暮らしを守り、国際社会の平和と安定に一層貢献するべく、衆参での採決を得て、「平和安全法制（平和安全法制整備法（通称）、国際平和支援法（通称）の総称）」を可決・成立させました。

本連盟の諸施策と関連するものを中心に紹介しました。この他にも、安倍元首相は大胆な経済政策として「アベノミクス」を打ち出し、経済回復や雇用拡充など大きな成果を上げられました。また、「地球儀を俯瞰する外交」として国際社会との協力連携に尽力され、TPP（環太平洋パートナーシップ）協定の締結や、日米豪印（QUAD）の枠組み構築などに努められました。

安倍晋三元首相の数々の御功績に改めて感謝致します。

祝

山谷えり子氏が四期目の当選 第二十六回参議院議員選挙結果報告

— 参院選の結果を踏まえ、いまこそ憲法論議を加速せよ！ —

六月二十二日の公示日より全国各地で熱い戦いが繰り広げられた第二十六回参議院議員通常選挙。選挙戦の終盤、安倍晋三元首相が銃撃にあい逝去されるという衝撃的な事件があり、安倍元首相を応援するに埼玉県で実施予定であった本連盟が推薦する山谷えり子候補の街頭演説会は中止となりました。



七月十日には投票が行われ、山谷候補は、一七二、六四〇票を獲得して見事四期目の当選を果たしました。当日、都内のホテルには打田文博会長をはじめ多くの支援者が集い、午後八時の開票が始まって間もなく当選確実が報じ

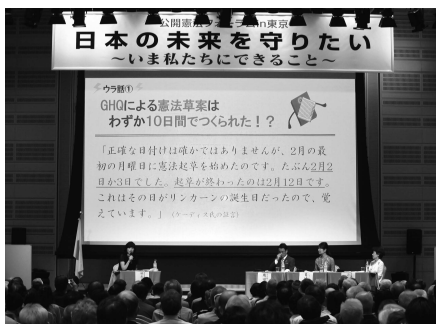
られると、会場は支援者の歓喜に包まれました。山谷議員は支援者に対し、安倍元首相の遺志を受け継ぎ、「美しい日本を輝かせ、自分の国は自分で守りつつ、世界平和のためにリーダーシップを取れる国づくりをして参りたい」と感極まった様子で決意を述べられました。続いて会場内の全員で黙祷し、安倍元首相へ哀悼の誠を捧げました。

尚、各選挙区では、本連盟が掲げる施策に賛同し、中央本部または都道府県本部が推薦した候補者四四名が当選しました。

昨年十月の衆議院議員総選挙に続き、今回の参院選においても「憲法改正の是非」は大きな争点の一つとされ、改憲に前向きな与野党（自民党、公明党、日本維新の会、国民民主党など）で、憲法改正案の国会発議に必要となる三分の二以上の議席（一六六議席以上）を獲得できるか否かが注目されました。結果と

して改憲勢力の議席数は一八二議席（中央本部調べ）と目標を大きく上回り、多くの国民が国会での憲法論議の進展を望んでいるということが明らかとなりました。前回の通常国会では、衆院では十五回、参院では六回にわたり憲法審査会が開かれ、非常時を見据え、「オンライン国会」、「国会議員の任期延長」の是非や我が国の安全保障に直結する「憲法九条」のあり方など、多岐にわたり活発な議論が行われました。これまで憲法審査会の開催すら忌避されてきたことに鑑みれば、各党から忌憚のない意見を引き出したことは大きな前進といえましょう。今後はこれまでの議論を踏まえ、具体的な憲法改正案が速やかに取り纏められ、憲法改正案の国会発議がなされることとが待ち望まれます。そして、国会発議の後には国民投票が控えています。国民投票において何としても過半数の賛同を得るために、改憲に向けた気運を一層喚起してゆくことは急務です。

本連盟はこれまでも全国主要都市七カ所（福岡、大阪、愛知、石川、埼玉、北海道、東京）で「公開憲法フォーラム」を企画・実施して参りました。直近に開催



した「公開憲法フォーラムin東京」（会場…大手町サンケイプラザ）では、三六〇名が会場に集い、緊迫するウクライナ情勢を踏まえた我が国の安全と憲法のあり方等について、元空将の織田邦男氏による基調講演をはじめ、産経新聞月刊「正論」編集長の田北真樹子氏のコーディネートのもと、織田邦男氏、ジャーナリストの葛城奈海氏、参議院議員の山谷えり子氏を迎えたパネルディスカッションを通じて認識を共有しました。

衆参両院において改憲勢力で三分の二以上の議席を獲得したいまこそ、憲法改正実現に向けた好機であることは論を俟ちません。本連盟では引き続き、国会での憲法論議の活性化と改憲気運の更なる醸成を目指して、諸施策の推進に努めて参ります。

美しい国づくりに向けて

参議院議員
自由民主党文化立国調査会長

山谷 えり子



日本の宝、世界の宝でいらした安倍元総理の亡くなられた喪失感、日に日に大きくなるばかりです。

夏の参議院選挙は大変に厳しく、家族、教育、国なおし。憲法改正、拉致問題の解決、戦後の宿題片付けますを訴えながら全国を走り回っていた選挙期間中も、安倍元総理からは何度もどうなってますかと電話をいただき、亡くなられた七月八日の夕方は、埼玉の大宮で私の応援弁士として演説をしてくださるはずもありました。その前に開催した六月の「励ます会」では、冒頭挨拶で私のことを戦う政治家と言ってくださり、「男系でないできた皇統を守っていくという上においても、いろんなことが起こる可能性があります。一度失ったものは、もう取り戻せないわけですから、その点で最後まで絶対的に戦い続けてくれるのは山谷さんなんだろうと思います」と話されました。

戦後レジームから脱却し、美しい国がらのもとに日本を発展させる。自分の国は自分で守り、誇りある歴史と伝統を学校教育を通じて次代の子供たちに伝える。このあたり前のことが、戦後の歪められた言論空間の中では容易なことではありませんでした。安倍元総理は、不屈の戦う政治家として粘り強く、摩擦を恐れず大きなビジョンのもとに明治以来最長の内閣を率いて、国益と平和を求めながら一つ一つを成し遂げてくれました。

このたび神道政治連盟の皆様のご支援により、尊い議席をあずからせていただいたその意味を一瞬たりとも忘れず感謝し、そのご遺志を結実させていくことをお誓い致します。有難うございました。

戦後七十年談話を閣議決定した平成二十七年の夏、私は国務大臣として事前に談話を読ませていただいた時の記憶が今も鮮やかによみがえります。「あ

の戦争には、なんら関わりのない私たちの子や孫、そ

してその先の世代の子供たちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません」と明記され、国際協調主義のもと、日本も役割を果たしていく、自らも世界戦略のルールを作っていく姿勢に胸がふるえると申し上げました。憲法前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した：」なる空疎な構えから脱却し、国家という概念に息を吹き込み直す決意のマイルストーン（標石）でもあると感じました。

その翌月には平和安全法制を、そしてその後、国際社会では「自由で開かれたインド太平洋」構想、日米豪印の枠組みクアッドなど大きな戦略をリードし、自由主義諸国の共通ビジョンと平和のための基軸を作りあげられました。



今、ロシアのウクライナ侵略、中国の軍拡、北朝鮮の核開発を見ながら、多くの日本人は安倍元総理の現実を見る眼の確かさと戦略性、実務能力に感謝し、同時にいかに多くのこれからやらねばならぬことが残

されているかを感じていることと思います。

私は教育再生担当の総理補佐官として、平成十八年の教育基本法改正に関わらせていただきましたが、美しい国づくりの中心に据えるのは教育と言われていた安倍元総理の思いをつなぎ改革の手を緩めるわけにはいきません。

また、心血を注いで解決されようとした拉致問題の解決も結果を出さねばなりません。家族会の横田拓也代表とは、先日、安倍元総理の議員会館の部屋を訪ね、主のいない淋しさ悔しさを共にしながら解決を誓い合いました。

自民党は参院選で「憲法改正の早期実現」を公約に掲げ、勝たせていただきました。防衛力の強化はもちろんのこと経済安全保障、エネルギー安全保障、食料安全保障、土地の安全保障、文化の安全保障など、さまざまな視点からの安全保障を考え、国家基盤の強化を急ぎたいと存じます。

美しい日本を取り戻す。祖国日本と安倍元総理のご恩に報いるべく走り続ける覚悟です。引き続き、御指導の程宜しくお願い申し上げます。



神政連国会議員懇談会総会・令和四年中央委員会を開催

自民党の国会議員で組織される神道政治連盟国会議員懇談会では、去る六月十三日、コロナ禍のため中止を余儀なくされていた総会並びに神政連役員らとの合同懇親会を東京のホテルニューオータニにおいて、三年ぶりに開催しました。会場には、国議懇会員をはじめ、地方議連会員や神政連都道府県本部役員など約三八〇名が集まりました。

司会を城内実国議懇事務局長が務め、冒頭、安倍晋三国議懇会長と打田文博神政連会長が挨拶しました。この中で安倍会長は、皇室制度こそが国議懇の守るべき中核であり、今後皇統を護持していくと述べられました。



議事では、一年間の取り組みが報告された後、

部と連携し、活動を展開しています。



翌十四日には神社本庁大講堂において、全国の中央委員が出席して神道政治連盟令和四年中央委員会が開催されました。

開会式では、打田会長の挨拶に続き、来賓の高市早苗自由民主党政務調査会長、小野貴嗣神社本庁理事、山谷えり子国議懇副幹事長、城内実同事務局長よりそれぞれ祝辞を戴きました。その後、表彰式が行われ、功績のあった四都道府県本部をはじめ、本連盟の活動に尽力した二六名の会員に表彰状が、また七地方議員連盟に感謝状がそれぞれ贈呈されました。

次に議事に移り、令和三年度事業報告、令和二年度一般会計歳入歳出決算、同特別会計収支計算書が承認されたほか、令和四年度活動方針・事業計画案、同一一般会計歳入歳出予算案が審議、可決されました。特に活動方針・事業計画案では、参議院議員選挙へ向けた取り組みの強化、皇

今後の活動方針が審議され、皇室や憲法改正などの勉強会の開催、各地の神社参拝、青年神職と交流を図っていくことが異議なく諒承されました。その後、出席した議員から安倍会長、山谷えり子国議懇副幹事長に向けて、国防、憲法改正、家族制度などについて質問があり、活発な意見交換が行われました。

また総会終了後の合同懇談会では、長曾我部延昭神政連顧問の挨拶に続き、安倍会長の乾杯により和やかに懇親を深めました。

尚、神道政治連盟国会議員懇談会では、令和四年八月二十日現在、衆議院議員一八五名、参議院議員七一名、計二五六名の国会議員が活躍しています。また各地方においても三一の地方議員連盟が設立されており、各都道府県の神政連本

室の尊厳護持運動や憲法改正運動の推進、家族のあり方を巡る問題への対応などが盛り込まれました。

また議事の途中には、公務の合間を縫って駆けつけて戴いた有村治子国議懇副幹事長より挨拶を戴き、参議院議員選挙に出馬する山谷氏を激励されました。（選挙結果詳細は九、一〇頁参照）



尚、本年は役員改選が実施され、打田文博会長・石川正人副会長が再任、服部憲明副会長（前幹事長）・黒神直大幹事長（前総務会長）・高麗文康総務会長が新任されたほか、綱紀委員・監査委員や各地区より選出された副幹事長・総務がそれぞれ選任されました。

今後、取り組むべき諸課題について、新体制の下、役員一丸となって取り組んで参ります。

（新役員は裏表紙参照）

